明治大学
経営学部

国語問題

はじめに、これを読みなさい。

1 この問題用紙は13ページある。**ただし、白紙はページ数に含まない。**
2 試験時間は60分である。
3 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
4 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
5 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。解答欄は裏面にもある。
6 問題が指示する数より多くマークしないこと。
7 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもＨＢ・黒)で記入すること。
8 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
9 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
10 **解答用紙はすべて回収する。**持ち帰らず、必ず提出すること。
11 この問題冊子は、必ず持ち帰ること。
12 解答をマークするときには、記入例を参照すること。

良い例	悪い例
●	◎ ⊗ ○

(マーク記入例)

(一)　次の文章を読んで、後の問に答えよ。

すべての市民に就労の機会をひらくことは、今日の条件のもとでは困難である。安定した就労の機会をもつことができるかどうかは個人が制御しうる事柄ではなく、グローバル化した産業構造や賃金構造によって左右されている。

いわゆる積極的労働政策(activation)――リカレント教育[注1]の整備、職業訓練プログラムの拡充、個々の実情に応じた職業紹介等のサービス、キャリア・ラダー(仕事を技能に応じた複数の職階に分け、専門性と賃金を高める梯子をかけること)の導入等――によって就労機会へのアクセスをハバ[a]んでいる具体的な障害を取り除いていくことはもちろん大切である。しかし、この政策にしても就労の機会を保障することができないのは、それが個々人に帰せられる問題ではないからである。

実際、近年の社会保障論においても、就労機会の減少という条件を真剣に受けとめ、「完全雇用社会」(full employment society)に代わる「完全従事社会」(full engagement society)という構想が示されている。これは、労働市場の外部で行われる多様な社会的活動、つまり、ケア提供(育児・介護・介助)やボランティア活動、NPOや社会的企業等での仕事、あるいは時間をかけて(再)教育や(再)訓練を積むことなどを、x人々が社会的協働に参加する活動様式の一部としてとらえ直していく――つまり、労働だけを社会的協働を構成する唯一の活動様式とみなすのではない――方向性に沿ったものである。

「完全従事社会」と呼ぶかどうかは措くとして、AI(人工知能)による労働ダイタイ[b]がこの先進んでいくことが確実に予想されるなかで、労働に限定されない活動の機会を社会がどのようにひらいていくかに関心を向けようとする点で、この構想は、有益な示唆を与えてくれる。

この構想は、第一に、ホネット[注2]のいう「業績」を評価する基準の変更を含んでいる。それによれば、たんに市場での需要の対象となるものを生産するだけではなく、人々が現に必要としながらも、市場では提供されにくいサービスや作品を提供すること、また、短期的な有用性ではない視点から見た人的資本、社会関係資本等の資本形成も社会にとって有意義な活動とみなされることになる。

第二に、この構想は、「相互性」規範に対する一定の修正をともなっている。それは、「相互性」の相互貢献の面を強調して、人々を労働市場での(再)雇用に向けて動員するのではなく、各人にとってそれぞれ可能な条件のもとで社会的協働に参加することを促す。①社会的協働は、対称的な相互性を人々に求める必要はない。修正された相互性の観念は、就労自立をすべての人に一律に求めるのではなく、各人の生をすでに規定しているさまざまな偶然性により配慮する(そうした偶然性には、才能や心身の条件が現行の価値評価基準とどれだけ適合しているか、これまでどのような資本形成の機会にアクセスすることができてきたのか、従来いかなる職種に就くことができてきたか等々が含まれる)。【イ】

フルタイムの就労の機会をすべての市民にひらくことができない――したがってすべての市民が雇用のみを通じて十全な所得を得ることはできない――とすれば、労働の形態を多様なものにしていくとともに、それぞれの働き方に見合った、硬直的ではない生活条件の保障を構想していく必要がある。【ロ】

そして、社会的協働への貢献を労働に限定せず、多様な仕事や活動を含むものとして幅広くとらえ、そうした仕事や活動を公的に支援していくことも大切である。財を生産する活動だけが社会的協働への貢献ではない。【ハ】コミュニティの維持や再生のための活動、排除や周辺化を防ぎ人々を社会につなぎとめようとする活動、さらには、国外で貧困に対処するための活動など、現に多くの人々が携わっているさまざまな活動を正当に評価し、それに従事する人々が安定した生活条件が得られるようにすることも社会保障の果たすべき役割である。

社会保障は、社会的協働からいったん排除された人々を再びホウセツ(c)するというよりもむしろ、人々がそもそも社会的協働から排除されにくいようにする生活条件を構築・維持していく方向で再編される必要があるだろう。【ニ】この点に関しては、②セイフティネットの考え方が社会保障について考える視点を過剰に規定してきた。社会保障の制度は、事後的な保護や救済を行う制度、あるいは同じことだが、労働市場を補完する従属的な制度という観点から理解されてきた。

セイフティネットを用いた事後的な救済は、たしかに、貧困の問題には対処しうる。それは、社会的協働から排除された人々にそれでもまともな生活をおくることのできる条件を保障しようとするからである。しかし、それは、不平等の問題に対しては有効

に対処することはできない。というのも、それは、人々がそもそも社会的協働に参加する際の有利―不利の違いに真剣な関心を払わないからである。不利な条件のもとで参加を余儀なくされる人々は、他者との競争にあってより排除されやすい立場にたたされざるをえない。貧困の問題のみならず、不平等の問題にも対処しようとするならば、社会保障の制度は、不平等がもたらす影響に事後的に対処するだけではなく、それに前もって対応する必要があるだろう。【ホ】

社会的・経済的不平等に社会保障というルートを通じてどのように対処しうるかについては、「財産所有のデモクラシー」(property owning democracy)〔注3〕に関するロールズの議論が有益な示唆を与えてくれる。

ロールズは、既存の福祉国家に、資源の保有における深刻な不平等を許容しながら、最低限度の保障を事後的に提供するにとどまっている、という③根本的な難点を見出す。彼が指摘するように、既存の福祉国家は、人々が(人生の早い時期に)いだくことのできる「生の見通し」(prospect of life)にすでに大きな格差があることには手を触れない。それは、社会的協働に参加するための確かな足場をもつことができず、それゆえ予め排除されやすい人々が存在することを許容してしまっている。そのような格差を許容するために、自己尊重の社会的基盤が損なわれ、慢性的に社会保障に依存するような社会層が再生産される、という悪循環がつくりだされてきた。

ロールズによれば、既存の福祉国家においては「社会的・経済的不平等を規制すべき［　I　］性の原理」がはたらいていない。それは、セイフティネットを張ることによって貧困からの救済を可能にするとしても、不平等が人々の生活とその展望に及ぼす効果を真剣には受けとめていない。ロールズが重視する不平等は「生の見通し」におけるそれであり、不利な条件のもとにおかれるがゆえに展望を自ら閉ざす――たとえば学業の継続を断念する――ことを余儀なくされるような事態こそが問題なのである。

貧困が貧困を、不平等が不平等を再生産する悪循環を断ち切っていくためには、社会保障は、事後的な保護に終始するのではなく、事前に資源(生産手段)を広く分散することによって、すべての人々が将来への希望を断念することなく社会的協働に参加しうる条件をつくりだしていかなければならない。

ロールズの構想する「財産所有のデモクラシー」は、社会的・経済的不平等を規制し、広義の生産手段を広く分散する――教育機

会へのアクセスを広範にひらくことを含む――ことによって、それが一部の人々の手に集中するのを避ける分配／再分配の制度を指している。

財産所有のデモクラシーは、これ〔一部の階層による生産手段の独占〕を回避するが、それはいわば各期の終わりに、さほどもたざる人々に所得を再分配することによってではなく、むしろ各期のはじめに、生産用資産と人的資本（つまり教育と訓練された技能）の広く行き渡った所有を確保すること、しかも、これらすべてを公正な機会の平等を背景にして確保することによってである。その狙いは、ただたんに不測の事故や不運のために敗北した人々を手助けすることではなく（手助けしなければならないのではあるが）、むしろ、適正な程度の社会的・経済的平等を足場にして、［Ⅱ］立場にすべての市民をおくということである。……財産所有のデモクラシーにおいては、自由で平等な者とみなされる市民間の公正な協働システムとしての社会という観念を基本的な制度において実現することが目標である。これを行うためには、基本的な制度は、最初から、市民たちが対等な足場で十全に協働する社会構成員であるために十分な生産手段を広く市民たちの手に握らせなければならないのであり、それを少数の人々だけのものにしてしまってはならない。こうした手段には物的資本と並んで人的資本も含まれる。つまり、知識と諸制度の理解、教育を受けた諸能力、そして訓練された技能である。

福祉国家を擁護してきた思想の根底にある問題を指摘するロールズの議論には、今後の社会保障のあり方を考えるうえで貴重な示唆が含まれている。

第一に、社会保障は、たんに事後的な保護(protection)に終始してはならず、人々が「生の見通し」をひらき、それを広げていくことに資するような、事前の促進(promotion)でなければならない、ということである。子供たちが、貧困ゆえに人生の展望を早くから閉じざるをえないような状況もすでに生じているだけに、［Ⅲ］の世代間連鎖を断ち切ろうとするこの考え方は重要である。

第二に、［Ⅳ］の分散をはかり、社会的協働に参加しうる条件を保障することは、隔離や分断を回避する社会統合という観点から見ても重要である。社会的協働から排除され、事後的な保護に依存せざるをえない事態は、人々の［Ⅴ］の感情を損ないやすいだけではなく、そうした人々に対する他の市民のルサンチマン〔注4〕を惹き起こしやすい。社会的協働への広範な参加を促すことができれば、「［Ⅵ］な人々のための福祉」という否定的なイメージを払拭していくことにも役立つ。

第三に、このような事前の促進は、労働市場からいったん排除された人々を主な対象とする積極的労働政策とも異なる。それは、短期的視点からみて有用なスキルの習得ではなく、生涯を通じて各人のたしかな資産（拠り所）となるような人的資本の形成を促すものである。現代の社会においてその核心となるのは何よりもまず［Ⅶ］の保障である。

「財産所有のデモクラシー」の構想は、ロールズ自身の言葉でいえば、「民主的な平等」(democratic equality)の考えにもとづくものであり、たんに各世代に公正な競争条件を用意しようとする出発点の平等化にとどまるものではない。それは、人々が「生涯を通じて」社会的協働から排除されないための生活条件を確保しようとする。

（齋藤純一『不平等を考える』より）

＊文中に一部省略した箇所がある。

注〔1〕リカレント教育……いったん社会に出た人にも教育を受ける機会をもたせる制度。
〔2〕ホネット……ドイツの政治哲学者（一九四九～）。
〔3〕ロールズ……米国の政治哲学者（一九二一～二〇〇二）。
〔4〕ルサンチマン……鬱積した怨恨や憎悪の感情。

問1　傍線部a～cのカタカナの部分を漢字に直せ。

問2　傍線部①の「対称的な相互性」にもっとも意味の近いものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

1　完全従事　2　短期的有用性　3　人的資本の形成　4　相互貢献　5　価値評価基準
6　硬直的ではない生活条件

問3　次の文章を補うのにもっとも適切な箇所を、本文中の記号【イ】～【ホ】の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

つまり、正規雇用と非正規雇用の二分法の枠組みを維持するのではなく、それぞれの生き方やライフスタイルを反映する多様な働き方があることを肯定したうえで、たとえば「補完型所得保障」(労働所得と公的な所得保障の組み合わせ)を制度化することによって、仕事や活動から得られる所得が十分ではない人々の生活条件を保障することはそうした方向性に沿っている。

1　【イ】　2　【ロ】　3　【ハ】　4　【ニ】　5　【ホ】

問4　傍線部②はどういうことか。その説明としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

1　セイフティネットによってコミュニティの再生や国際貢献にともなう社会の安定が実現すると人々に錯覚させた。
2　セイフティネットによって人々が不利な条件のもとで競争に参加することがないように力を注いだ。
3　セイフティネットによって労働による社会的協働から排除された人々の生活条件の整備に専心しようとした。
4　セイフティネットによって労働市場を補完することで人々が資本形成の機会から排除されないことに目的を限定した。
5　セイフティネットによって人々のあいだに財産の不平等を生み出す条件を排除することに社会の関心を集中させた。

問5　傍線部③は、なぜ「根本的な難点」と言えるのか。その理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

1　財産の所有における不平等によって競争からの排除が生じている点を無視しているために、貧困からの救済を支持するための制度的基盤がないがしろにされているから。

2　資源の保有における格差を許容することで、自尊の基盤を奪われ社会保障に依存する階層を再生産することを繰り返すことになるから。

3　社会的協働に参加できる十分な足場を人々が確保するほどには、最大多数が最大の資源を確保することを可能にするような再生産手段が整っていないから。

4　不平等があらかじめ人々の自己尊重を損なうことで社会的協働の貢献度に格差を生じ、それがまた社会的な資源の損失と貧困を助長しているから。

5　セイフティネットを用意して貧困に陥る可能性を減殺することで、むしろ「生の見通し」という人々が自由に保有すべき資源を平等に配分することを不可能にしているから。

問6　空欄Ｉを補うのにもっとも適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

1　対称　2　安定　3　多様　4　有用　5　生産　6　正当　7　平衡　8　相互　9　自立

問7　空欄Ⅱを補うのにもっとも適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

1　貧困を無くそうとする意志をもつことができる
2　自分自身のことは自分で何とかできる
3　所得の向上を期待することができる
4　「生の見通し」の不確実性に事前に対処できる
5　公正な教育を受けることができる

問8　空欄Ⅲ～Ⅵを補うのにもっとも適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、その番号をマークせよ。

1　促進　2　幸福　3　平等　4　資源　5　保護　6　自尊　7　自棄　8　怠惰　9　不利

問9　空欄Ⅶを補うのにもっとも適切な語句を十字以内で本文中から抜き出せ。（句読点は一字と数える。以下同じ）

問10　波線部Xにいう「社会的協働」が実現するための条件は、どうあるべきだと本文では想定されているか、五十字以内で説明せよ。ただし、「労働」「所有」「平等」の三語を必ず用いること。

（二）次のⅠは清少納言の『枕草子』の一節である。藤原道隆の没後、跡継ぎの伊周が流され、娘の中宮定子にも影響が及ぶ中で、清少納言は定子を心配しつつ里にいる。Ⅱは、Ⅰの一場面を取り上げ、老尼と女房の立場で批評した『無名草子』の文章である。ⅠとⅡを読んで、後の問に答えよ。

Ⅰ 殿〔注1〕などのおはしまさで後、世の中に事出で来、さわがしうなりて、宮もまゐらせたまはず、小二条殿といふ所に①おはしますに、何ともなくうたてありしかば、久しう里にゐたり。御前わたりのおぼつかなきにこそ、なほえ絶えてあるまじかりける。②右中将〔注2〕おはして物語したまふ。今日、宮にまゐりたりつれば、いみじうものこそあはれなりつれ。女房の装束、裳、唐衣をりにあひ、たゆまで候ふかな。御簾のそばのあきたりつるより見入れつれば、八、九人ばかり朽葉の唐衣、薄色の裳に、③紫苑、萩などをかしうてゐ並みたりつるかな。御前の草のいとしげきを、「などか。かきはらはせてこそ」と言ひつれば、「ことさら露置かせて御覧ずとて」と、宰相〔注3〕の君の声にていらへつるが、をかしうもおぼえつるかな。「御里居、いと心憂し。かかる所に住ませたまはむほどは、いみじき事ありとも、④かならず候ふべきものにおぼしめされたるに、かひなく」とあまた言ひつる。語り聞かせたてまつれと⑤なめりかし。まゐりて見たまへ。あはれなりつる所のさまかな。台の前に植ゑられたりける牡丹などの、をかしき事、などのたまふ。「いさ。人のにくしと思ひたりしが、またにくくおぼえはべりしかば」といらへきこゆ。おいらかにも笑ひたまふ。

げにいかならむと思ひまゐらする御けしきにはあらで、候ふ人たちなどの、「左の大殿方〔注4〕の人知る筋にてあり」とて、さしつどひ物など言ふも、下よりまゐる見ては、ふと⑥言ひやみ、はなち出でたるけしきなるが、見ならはずにくければ、「まゐれ」など度々ある仰せ言〔注4〕をも⑦過ぐして、げに久しくなりにけるを、また宮のへんには、ただあなたがたに言ひなして、そら言なども出で来べし。

Ⅱ 中関白殿〔注1〕隠れさせたまひ、また、内大臣〔注5〕流されなどして、御世の中衰へさせたまひて後、⑧かすかに心細くておはしましける

に、頭中将〔注2〕それがし参りて、簾のそば、風に吹き上げたるより見たまひければ、いたく若き女房の、清げなる、七八人ばかり、色々の単襲、裳、唐衣などもあざやかにてさぶらひけるもいと思はずに、今は何ばかりをかしきこともあらじ、と思ひあなづりけるも、あさましくおぼえけるに、庭草は青く茂りわたりてはべりければ、「などかくは。これをこそ払はせておはしまさめ」と聞こえたまひても、宰相の君となむ聞こえける人、「露置かせて御覧ぜむとて」といらへけむこそは、なほ古りがたくいみじくおぼえさせたまへ。

＊ 登場人物の系譜関係は次の通り。

注 〔1〕 藤原道隆
〔2〕 源経房
〔3〕 中宮付きの女房
〔4〕 藤原道長
〔5〕 藤原伊周

問1　傍線①⑥⑦の主語は誰か。もっとも適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

1　藤原道隆　2　中宮定子　3　源経房　4　宰相の君　5　清少納言　6　藤原道長　7　女房たち

問2　傍線②の右中将の「物語」は、「今日」から始まるが、それはどこまで続くか。最後の三字を書け。（句読点は一字と数える。以下同じ）

問3　傍線③は衣を重ねて着る時の配色や衣の表と裏との配色を指す語であるが、これを何の色目と言うか。ひらがな三字で書け。

問4　傍線④の解釈としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

1　あの方（清少納言）は必ず参上すべきものと右中将が願っていらっしゃるのに、
2　あの方（清少納言）は必ず伺候すべきものと中宮様がお思いでいらっしゃるのに、
3　あの方（宰相の君）は必ずおそばに控えているべきものと右中将が考えていらっしゃるのに、
4　あの方（宰相の君）は必ず付き従うべきものと中宮様が感じていらっしゃるのに、

問5　傍線⑤の品詞分解（矢印の上）と口語訳（矢印の下）はどうなるか。もっとも適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

1　な・めり・かし→～だということらしいよ。
2　な・めりか・し→～だということにちがいないよ。
3　なめ・り・かし→～だということのように見えるよ。
4　なめ・りか・し→～だということかもしれないよ。

問6　傍線⑧は、中宮定子が心細い状態で過ごしている様子を述べたものだが、Ⅰでも定子の御殿からしんみりした感じを受ける部分がある。それはどの箇所か。十五字以上二十字以内で抜き出し、最初と最後の三字を書け。

問7　Ⅱの内容に合致するものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

1　道隆一家の御殿の庭が荒れ果てているので清少納言が苦言を呈すると、定子付きの女房が「定子様が亡き父を気遣って、露の置くのをご覧なさろうとして」と答えたのは、昔の栄華そのままですばらしいことと感心した。

2　道隆一家の御殿の庭草が伸びているので旧知の人が注意すると、定子を知る女房が「定子様が亡き父を思い出して、露の置く季節までご覧なさろうとして」と答えたのは、生前の父への心遣いとしてすばらしいことと感心した。

3　定子の御殿の庭草が茂っているのを訪れた人に指摘されると、おそば付きの女房が「定子様が露を置かせてご覧なさろうとして」と答えたのは、以前の栄えていた頃と変わらずすばらしいことと感心した。

4　定子の御殿の庭が放置されているのを宮中の人に批判されると、女房として仕えていた清少納言が「定子様が露の置くのを待ってご覧なさろうとして」と答えたのは、昔の風雅が続いていてすばらしいことと感心した。

問8　平安時代は女房文学が盛んであった。朝廷に出仕する女房は中宮に仕える者もいて、中宮は藤原摂関政治と結びついていた。その関係を示すと次のようになる。

藤原道隆　――　中宮定子　――　清少納言　――　『枕草子』

藤原［　A　］――　中宮［　B　］――　紫式部　――　『源氏物語』

『枕草子』の例にならって空欄Aに入るべき語をA群の1～5、空欄Bに入るべき語をB群の1～5から一つ選び、それぞれ番号をマークせよ。

また、空欄Aの人物に関する記述が多い［　C　］物語という歴史物語がある。空欄Cに入るべき語をC群から一つ選び、その番号をマークせよ。

A群	B群	C群
1　道綱	1　選子	1　堤中納言
2　道長	2　良子	2　狭衣
3　道兼	3　彰子	3　宇津保
4　隆家	4　式子	4　栄華
5　道真	5　高子	5　落窪